

創造から新天新地へ—24章でたどる神の救済史
16章 「新しく生まれなければ—新創造の始まり」
ヨハネの福音書3章

1. はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造 — 神は良き世界を造られた。
- ②墮落 — 罪により死が侵入してきた。
- ③契約の歴史 — 神は救済計画を展開された。
- ④メシア到来 — 約束が成就した。
- ⑤山上の垂訓 — 御国の義が提示された。

(2) 新たな疑問

- ①どうすれば人は御国に入れるのか。
- ②その問いに答えるのがヨハ3章である。
- ③ヨハ3章のテーマは、「改革」ではなく「再創造」である。

(3) 創世記1章との対比

①創造の御霊(創1:2)

Gen 1:2 地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上であり、神の霊がその水の面を動いていた。

②いのちを与える息(創2:7)

Gen 2:7 神である【主】は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

御国に入るための条件は「再創造」である。

ヨハ3章を3つに区分して学ぶ。

I. 第一区分：新しく生まれなければならない(1~8節)

1. ニコデモという人物

(1) 「夜、イエスのもとに来た」

- ①この訪問を知られたくない。

(2) イスラエル社会の成功者

- ①パリサイ人
- ②サンヘドリンの議員
- ③イスラエルの教師

④宗教的成功者でも足りない。

2. イエスの教え (3節)

Joh 3:3 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

(1) 「新しく生まれる」 (ἀνωθεν)

- ①「上から生まれる」という訳も可能である。
- ②人間的努力では不可能である。
- ③神的起源のいのちが暗示されている。

(2) 「水と御霊によって」 (5節)

- ①肉体的誕生
- ②霊的誕生

(3) エゼ 36:25~27

Eze 36:25 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、

Eze 36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

Eze 36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

- ①「新しい心・新しい霊」の約束がイエスにあって成就する。
- ②創造と再創造の連続性が見られる。

II. 第二区分：上げられる人の子 (9~15節)

1. 理解できない教師

(1) 「あなたはイスラエルの教師でありながら…」

- ①旧約は新生を予告していた。

2. 青銅の蛇 (民 21章)

(1) 救いの型 (14~15節)

Joh 3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。

Joh 3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

- ①罪の結果：死
- ②神の備え：見上げる信仰
- ③条件：見るだけ

- (2) 「上げられなければならない」
 - ①十字架(恥の道が栄光の道)
 - ②復活(十字架の正当性の証明)
 - ③昇天(メシアの高揚の完成)

(3) 御子の高揚は、新創造の基礎である。

III. 第三区分: ヨハネによる福音の要約(16~17節)

1. 16節

Joh 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(1) イエスのことばであっても、ヨハネのことばであっても、結論は同じ。

- ①この聖句は、福音の本質を簡潔に、的確に伝えている。
- ②すべての単語が、重要な意味を持っている。

(2) 主語は「神」である。

- ①イエスの受肉は、神の愛から出たものである。
- ②イエスの十字架の死(14節)は、神の愛から出たものである。
- ③神は愛である。
- ④神の愛は、最善を与えるほどに深く、強く、真実なものである。
- ⑤「ひとり子」とは、比類なき子、置き換えがきかない子である。

(3) 神の愛の対象は「世」である。

- ①ユダヤ人たちは、神はイスラエルの子たちを愛していると信じていた。
- ②しかし神は、すべての人を愛しておられる。
- ③「世」とは、罪を宿した人間のことである。

(4) 神が犠牲を払う目的は「永遠のいのち」を与えるためである。

- ①神は、罪人が救われることを喜ばれる(エゼ18:23)。

Eze 18:23 わたしは悪しき者の死を喜ぶだろうか——【神】である主のことば——。彼がその生き方から立ち返って生きることを喜ばないだろうか。

- ②神は、罪人が滅びを免れるように、救いの道を用意された。
- ③イエス・キリストを信じるかどうかで、道が分かれる。
- ④神の愛を拒否する者は、滅びる。

*滅びとは、存在しなくなることではない。

*滅びとは、神との関係が断たれ、神の怒りがとどまる状態である。

⑤神の愛を受け入れる者は、永遠のいのちを受ける。

*神の愛を受け入れた者は、新生した人である(5節)。

*新生した人は、救いを失うことがない。

⑥永遠のいのちには、2つの側面がある。

*永遠に生きるという時間的側面

*神との平和を持つという質的側面

2. 17節

Joh 3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

(1) 神は、御子を遣わすことなく、世をさばくこともできた。

①しかし、そうはしないで、御子を世に遣わされた。

(2) 神が御子を世に遣わされた目的

①世(罪人)を裁くためではない。

②御子によって世が救われるためである。

③御子は、究極的には世を裁かれるが、それは受肉の目的ではない。

今日の信者への適用

1. 私たちはすでに「新創造」に属している(存在の確信)

(1) 私たちは「宗教を持った人」ではない。

(2) 「努力して良くなろうとしている人」でもない。

(3) 「上から生まれた者」である。

(4) 「最初のアダム」ではなく、「最後のアダム」に属する者である。

(5) 信者はすでに「再創造」に入れられた者である。

2. 新創造は、今ここで始まっている(永遠のいのちの現在性)

(1) 永遠のいのちの二側面

①時間的側面(永遠に生きる)

②質的側面(神との交わり)

(2) 永遠のいのちは「死後の保証」だけではない。

①今日、神との平和を持って歩むこと。

②祈りは義務ではなく、新創造の呼吸である。

③新創造においては、御霊が私たちの内に住まわれる。

3. 「見るだけ」で救われたことを忘れない(恵みの原理)

- (1) 青銅の蛇の型は、信者に対しても語りかける。
- (2) 私たちは「努力して」救われたのではない。
- (3) 見上げただけで救われた。
- (4) 信仰生活は、「十字架を見続ける生活」である。

4. 光の中を歩む(悔い改めを隠さない)

- (1) 新生した者は闇に居続けられない。
- (2) 罪の隠蔽は新創造の呼吸を止める。
- (3) 告白と悔い改めは敗北ではなく、光に來たしるしである。

5. 花婿を待つ花嫁として生きる(終末的視点)

- (1) ヨハ3章後半は、花婿の到来を語る。
- (2) 救済史の流れ:
 - ①創造 → 契約 → メシア → 十字架 → 教会 → 終末 → 新天新地
 - ②信者は、「花嫁として整えられている存在」である。
 - ③終末的希望が現在の価値観を変える。